

むささび

第50号

令和5年10月10日発行

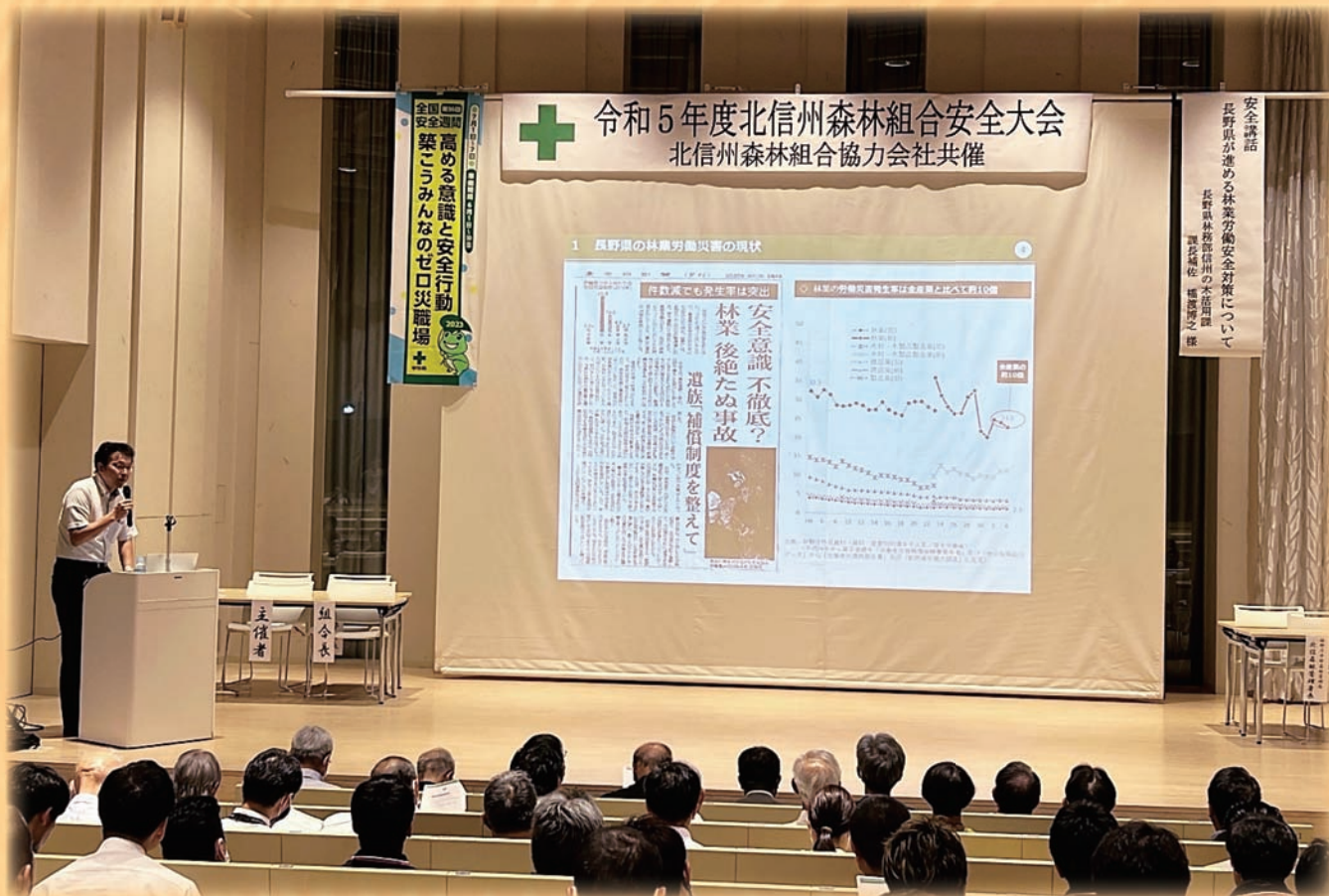
JForest 北信州森林組合

〒383-0061 中野市大字壁田938-1

TEL:0269-38-0371 FAX:0269-23-5350

URL <https://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>

E-mail musasaki@jforest-kitashinshu.or.jp



3年ぶりに通常開催となった安全大会（飯山市文化交流館なちゅら）

関連記事は3ページに掲載



組合ホームページもあります。ぜひ、ご覧ください！
<https://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>
 スマートフォン対応となっています。

主な内容

- 県議会農政林務委員会現地調査…………… 2
- 令和5年度安全大会を開催…………… 3
- 産業医の衛生巡視が行われました…………… 4
安全委員会の安全パトロール行いました。
- クマに注意してください…………… 5
役員安全パトロールが行われました。
- チェーンソー取扱業務安全衛生教育… 6
小学校の教育支援を行っています。
- 中野平中3年生SDGs教育…………… 7
- 花粉削減対策が始まります…………… 8

県議会農政林務委員会現地調査がありました。

八月七日（月）に長野県議会の農政林務委員会の皆様による現地調査が、当組合が野沢温泉村で行っている搬出間伐現場でありました。

当組合で行っているスマート林業の取組として、令和三年度から、長野県のスマート林業実践支援事業を活用し、高精度GNSS機材導入により衛星から位置情報を受信し境界確認に使用、さらにICTハーベスタを導入し伐倒木を造材、材積等データを送信可能としています。四年度はスマートフォン（ISOモバイル端末）による造材後の材積データ等の計測、五年度には距離計測機を導入し、地上レーザによる樹木配置・樹木形状を測定するなどとしています。そうした一連の流れと、それらの成果を活かし間伐を事業化している状況を確認いただきました。



南都業務課長から間伐作業を説明



現場見学の状況



委員の皆さんとの質疑・応答



プロセッサの造材作業の実演

現地調査では、参事が概況説明を行い、業務課長が実務について説明を行いました。特にプロセッサによる造材して集積する作業や、フォワーダで運搬してきた丸太を荷下ろしし集積する作業などの実演には、関心をもっていたいただいたようでした。

委員からは「こうした機械の導入により、どのくらい生産性が向上したのか」といった質問が出されました。

今年猛暑の中で、当日も暑い日となりましたので、そうした中で作業について、熱中症への心配なども意見として出されました。

また、作業を行っていた技能職員五人の中に二十代の職員が二名いることについて関心を持たれましたので、当組合には技能職員二十八名の中に、二十代以下が七名いますと説明したところ、「若い人が定着できる職場は良い職場だ」と良い意見をいただきました。スマート林業の取組については、当組合で計測機器を導入し丸太計測やデータ送信など可能としています。木材流通がそうしたことに対応できていないため、組合内でのデータ活用には留まっています。

ぜひ、こうした取組を全県に広めていただき、木材流通に活用できるように、改革いただければと願っております。

令和5年度安全大会を開催しました



安全大会の様子

協力事業体も参加する通常開催となりました。

七月七日（金）に安全大会を「飯山市文化交流館なちゅら」で役員と協力事業体、そして来賓の方々にも御出席いただき、コロナ分類行を踏まえ、通常の形式で開催しました。

昨年は、春先早々に休業四日以上となる労働災害がありました。その後は休業四日以上となる労働災害の発生はなく経過してきています。労働災害防止のためには、作業者が自分事として認識することが肝心です。

被災した者は運が悪いか、技量が劣っているとか、自分はケガはしないから関係ないといった認識では困ります。

作業する者全員が労働災害防止のために、共通認識を持つことが大事であり、それぞれが自分事として認識する。そつしたことから、労働安全衛生活動は、継続して行っていくことが大切です。全ての役員が労働災害や物損事故の防止を誓い、安全で健康に生活できるよう、労働安全衛生の共通認識を持ち、労働災害ゼロを目指すことを目的に安全大会を開催しているのです。



安全推進優秀会社 株式会社シモダの表彰



畔止班の安全取組宣言の様子

昨年度の安全推進優秀会社を株式会社シモダとし、山崎組合長から表彰状と副賞が贈られました。なお、安全推進優秀班は、労働災害発生状況と物損事故発生状況から該当班なしとしています。ぜひ、来年は表彰されるようより一層の取組みを進めたいと思います。

大会では、役員体制が大きく変わりましたので、役員紹介が行われ、また、新人紹介では業務課の羽入田君が紹介されました。続いて、各作業班と業務課の事業係、計画係、利用事業室から、安全取組宣言が行われ、全職員を代表して南都業務課長から「安全の誓い」が行われました。

安全講話では、今回は長野県林務部信州の木活用課の橋渡課長補佐から「長野県が進める林業労働安全対策について」講演が行われました。皆、真剣な面持で聞き入っておりました。

労働安全対策に特効薬はなく、地道な活動の積み重ねが重要になります。皆が、安全で健康に生活できるよう、労働災害ゼロを目指してまいります。

産業医による衛生巡視を実施しました。



新しくなった赤坂林産事業所での巡視の様子



利用事業室での巡視の様子

七月二十日（木）に産業医による職場の衛生巡視を実施しました。産業医の徳竹修一先生と安全衛生管理者、衛生管理者と衛生委員が、赤坂林産事業所、千石造林事業所、利用事業室、本所の事務所内の危険性、作業環境、作業管理、勤務体制、VDT機器、労働衛生対策についてチェックを行い、その後で巡視結果について協議を行いました。産業医からは熱中症対策として、「シーズン前に汗をかきやすい体にしておく。運動をして汗をかいたり、入浴で長めに湯船につかって汗をかくとよい。」「運動後にタンパク質を摂ることで、体内のアルブミンが増加する。アルブミンは血液の浸透圧調整の役割があり、血管内の水分量を増加させることで、熱中症に対応できる体づくりにつながる。」といった指導がありました。産業医の意見を含めて委員会議事録を各事業所に掲示するとともに、適切な対応を指示しました。

また、産業医によるエピベン自己注射キットの取扱説明会が行われました。毎年、行っているもので、蜂毒抗体陽性者を集めて説明会を行っていただきました。エピベンは、抗体陽性者に対して、救急措置用として所持させるもので、アナフィラキシーショックによる呼吸困難等の症状を一時的に対処する薬剤で、現場から病院に行く間の方が一の場合に備えているものです。後日、産業医の医院で診察を受けて、各自に処方されました。

安全委員会 安全パトロールを実施しました。



安全委員会の安全パトロール様子

八月一日（火）に安全委員会の安全パトロールを実施しました。

今年度のパトロールは、造林班の上木島防災ダム刈払い現場、林産班の木島山国有林の搬出間伐と野沢温泉村の受託森林整備による搬出間伐の三現場を巡りました。

刈払い現場では蜂への対応や作業者間隔など、搬出間伐では伐倒木の切り口に、受口の斜め切りと水平切りが合致しているものがあったなどの意見が出されました。全体の意見としては、伐倒作業で、各々がかかり木対策の道具等を装備しており安全意識が定着している。各現場で重機のオーバーヒートが問題となっており、現場に1基ずつエアコンプレッサーを配備し、毎日の作業終了後にラジエーターコアガード（網）の清掃を行うようにすべきといった意見が出され、早急に対応をすることとしました。

クマに注意してください!

作業中にクマ被害が発生しました。

木島平村の大ブナ歩道の刈払いのため、刈払機を担いで四名で連なって歩いていた技能職員が突然現れたクマに襲われるという事案が発生しました。幸い、翌日には仕事に復帰できる軽傷でしたが、このような事案は初めてのことで、対応に苦慮しているところです。

午後の仕事を始めるにあたり、一名が先に現地に入り刈払機で作業を行っているところに、後から四名が連なって向かっていたところ襲われたもので、エンジンの音が生かしてもクマが出現したことは驚きです。技能職員の話では、林内に入ったところ「しゃがれた人の声のような音が聞こえた」ということで、クマが警戒して声を出していたのかもしれない。

襲ってきたクマは、被災者の後ろにいた技能職員が刈払機で叩いて追い払ったというところで、他の技能職員が襲われなかったことは幸いでした。

皆さんも、機械の大きな音があってもクマは出しますので、ご注意ください。



クマによる被災状況



クマを撃退し軸が折れた刈払機

役員安全パトロールを実施しました。

八月十八日(金)に業務委員と組合長による役員安全パトロールを実施しました。

今年度のパトロールは、八月四日にクマ被害のあった現場と、国有林の搬出間伐で四日以上以上の休業となる労働災害発生現場を確認し指導を行ったほか、堤防の刈払現場のパトロールを行いました。

クマ被害では、「林道近くの歩道入口で多数が居るところにクマが出る」とは、現場に入る際に爆竹を鳴らすなど、何らかの対策を検討すべき」といった意見が出されました。また、国有林の現場では、足首捻挫の被災から五日目に復帰した職員に安全指導が行われました。

堤防の刈払いでは、暑さ対策の検討と刈払重機導入による作業者の負担軽減を早急にすべきといった意見が出されました。

今回出された意見につきましては、検討し労働環境を改善していきたいと考えています。



クマ被害の状況を現地で説明を受ける

チェーンソーを用いて行う伐木等の 業務従事者安全衛生教育を受講

七月十七日(月)「海の日」に、高水林業協議会により北信管内の里山整備利用地域認定団体とその構成員及び林業事業体等を対象に「チェーンソーを用いて行う伐木等の業務従事者安全衛生教育」が当組合会議室で、田中参事が講師となり開催されました。

これは、(一社)長野県林業普及協会が県から委託されて行っている令和5年度里山整備利用地域リーダー育成事業により実施されたもので、当組合の他に林業事業体三社が受講しました。

「チェーンソーを用いて行う伐木等の業務従事者安全衛生教育」は「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」により労働安全衛生規則第36条第8号の特別教育の修了者を対象として行われるもので、五年おきに受講しなければならないものです。当組合からは、技能職員全員が受講しています。



安全衛生教育受講の様子



高社小学校の様子



中野小学校の様子

小学校の教育支援を行っています。

今年も中野市立高社小学校の木工クラブの指導を六月から十月に計六回行う予定です。また、新たに中野市立中野小学校のクラブ指導として六月から九月に計七回行う予定です。両校では、間伐材を使っての巣箱づくりを指導しています。四年生から六年生を対象としていますが、個人差が大きくあり、進み具合に差が出てくるのが課題です。特に一回二時間の授業時間の中での指導ですので、限られた時間の中で全員が完成できるよう補助をしながら指導を行っています。この広報誌が発刊する頃には、全員が完成していると思います。

この他に、木島平村立木島平小学校四年生の森林・林業教室の講師を行っています。このクラスでは、水についての学習を行ってきており、クラスで中野市の浄水場を見学したそうです。木島平村には浄水場がないのは、水がきれいだからということになり、水がきれいなのは森林のおかげということになったそうです。その森林を手入れしている森林組合に森林について話しをして欲しいということ、講師を依頼されたものです。

山には大きな木が茂り、周り山は豊かな森林となっていて中であって、想像はつかないかもしれないが、かつては木が広く切られ、志賀高原などの奥山でも木が伐られていた。そのため山は保水力を失い、昭和三十年代には洪水が発生し、大きな被害をもたらしたことなど古写真を見せて説明しました。子供たちは、そうした災害にたいへん驚いており、森林の手入れを続けることの大切さを感じたようでした。

中野平中学校 3年生のSDGs 教育を支援

SBC テレビ「夢テレビ」で取上げられました。



ノコギリとマサカリで伐採しました。



人力で丸太を引出しました。

昨年从中野平中学校のSDGs活動への協力を行っていますが、今年も依頼があり昨年同様の協力をする事となりました。
 今回は、希望する三年生が十五人と昨年よりも五人多くなり、昨年の活動が生徒達に良い影響を与えたのだと思います。そして、今年はSBCテレビの十月二日放送の「夢テレビ」で取上げたいということで、テレビ取材や出演するタレントも参加しての活動となりました。
 まず、六月十九日に森林・林業と森林組合について講義を行いました。そして、七月五日には以前は学校林であった森林でスギの木の伐採を行いました。昨年と同様にマサカリとノコギリを使って生徒達に伐採をしてもらいました。そして、チルホールなど使い森林内で倒した木を引寄せ、最後は道路際までロープを掛けて人力で引出しを行いました。
 全員が力を合わせたことで、難なく引き出すことができました。引出した丸太は、近くの高丘工場団地にある信越木材株式会社へ運び、後日製材をしていただきました。今年も信越木材のご厚意で製材を行っていただいています。

製材については動画を撮り、自分たちの伐った木が板になる様子を生徒達に見てもらいました。
 そして、夏休み中の八月八日から四日間を生徒達が自主的に学校に登校して、木工作に励みました。当組合で、道具の使い方等の指導を行い、様々な作品を完成させることができました。特に、今年は女子が参加したことから、きめ細かな作品が出来ていました。
 これらの作品は、学校祭で販売して、その売上により苗木を購入し、学校内の樹木の枯損箇所の植栽を行うということです。
 こうした生徒達の活動を通じて、親世代に森林の大切さや、地元の森林から生産される木材について関心を持っていただき、森林組合の認知度が上がればと考えています。
 今回、山にある木を伐り出して、製材されて板になり、その板から様々な品物を製作したことで、生徒達は、山の木を見た時に感じるものが変わったのではないかと思います。そうすることが森林・林業を認知されるために重要だと思います。



信越木材での製材



生徒達の木工作品。

花粉削減対策が

始まります。

この機会にスギトビグサレ 被害地の樹種転換を

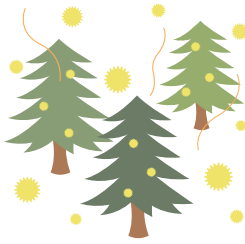
四月に岸田首相が「花粉症は多くの国民を悩ませ続けている社会問題と言える。関係省庁の縦割りを排し、さまざまな対策を効果的に組み合わせることが重要で、一朝一夕に解決するものではなく、息の長い取り組みが必要だ。」と発言したことがニュースになりました。その後、五月三十日に花粉症対策の関係閣僚会議が開かれ、十年後（令和十五年）にスギの人工林を二割程度減少させるなどの対応を進めたいと、三十年後には花粉の発生量の半減を目指すとする新たな対策が決定されました。

この花粉削減対策が林野庁で予算要求化され、令和六年度から始まる見通しとなりました。

国・県の施策で、主伐・再造林が進められる中で、管内では山ノ内町から野沢温泉村にかけての東側の山麓や高社山一帯などで、「スギトビグサレ」の被害が広まり、主伐の足かせとなっています。

この施策では、スギの皆伐へ補助金が出ることになると思われませんが、具体的な金額はまだ分かっていません。当組合としては、これを好期と捉えてスギトビグサレ被害地の樹種転換を進めるべきと考えています。

実施にあたっては、森林経営計画等の制度上の制約もありますので、そうした基盤整備を計画的に進めながら対応していきたいと考えております。



花粉削減・グリーン成長総合対策のうち 新たな花粉症対策の展開

【令和6年度予算概算要求額 22,150 (16,143) 百万円の内数】

<対策のポイント>

スギ人工林の伐採・植替え等の加速化やスギ材の需要拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大、林業の生産性向上及び労働力の確保、花粉の飛散量の予測、花粉飛散防止剤の早期実用化への支援等を一体的に実施する総合的な花粉症対策を進めます。

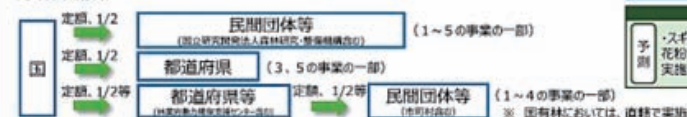
<事業目標>

- スギ苗木の年間生産量に占める花粉の少ない苗木の割合の増加（約5割【令和3年度】→9割以上【令和15年度まで】）
- スギ花粉の発生量の削減（令和2年度比 約2割削減【令和15年度まで】、5割削減【令和35年度まで】）

<事業の内容>

- スギ人工林の伐採・植替え等の加速化**
花粉の少ない苗木への伐採・植替えに係る森林所有者への普及啓発の実施・協力金の交付、伐採・植替えに寄与する路網整備や伐採・植替えの一貫作業の導入等を支援します。
- スギ材の需要拡大**
横梁材のスギ材への置換えに資する集成材工場の整備、建築事業者によるスギ材の利用、スギ材の需要拡大に向けた国民運動を促進する取組等を支援します。
- 花粉の少ない苗木の生産拡大**
官民を挙げた苗木増産体制の強化、細胞増殖技術を活用した苗木大量増産技術の開発、花粉の少ない苗木の広域流通等を支援します。
- 林業の生産性向上及び労働力の確保**
木材加工業者による高性能林業機械の導入による生産性向上や、農業等他産業との連携や外国人材の新規就業者の育成・確保、伐採や造林への新規参入等を支援します。
- 花粉飛散量の予測・飛散防止**
花粉飛散予測に資するスギ雄花花芽調査や手法の開発、航空レーザ計測・解析の実施、花粉飛散防止剤の空中散布技術の確立等を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

スギ人工林の伐採・植替え等の加速化	
スギ林所有者等への働きかけ ・伐採・植替えに対する協力金の交付 ・事業者が行う、所有者に対するスギ材の植替えの働きかけ ・対策の効果的な実施に向けた調査、普及の取組等	路網整備・低コスト造林 ・伐採・植替えに寄与する路網の整備や、一貫作業等の低コスト再造林の推進
花粉の少ない苗木の生産拡大	林業の生産性向上及び労働力の確保
苗木の増産 ・特定母樹等の種から、原種苗木を増産する施設の整備 ・都道府県・認定特定産種事業による採種圃・採種圃の造成・改良等 ・花粉の少ない苗木増産に向けたコンテナ生産施設整備 ・細胞増殖技術を用いて未熟種子から苗木を大量増産する技術の開発	生産性の向上 ・木材加工業者等による高性能林業機械の導入 ・林業機械の自動化・遠隔操作技術の開発・実証 ・伐採・植替えの効率化のためのデジタル林業戦略拠点の構築
広域流通 ・苗木の生産量が多い産地から少ない地域への苗木の供給調整	労働力の確保 ・農業等他産業との連携や外国人材等の新規就業者の育成・確保 ・漁業の漁期の異なる地域間での労働調整 ・伐採や造林への新規参入等
利用促進 ・横梁材等のスギ材への置換えに資する集成材工場等の整備 ・スギ材のJAS構造材等を利用した建築を行う事業者への支援 ・スギ材の活用に向けた技術開発等	普及・啓発 ・スギ材の需要拡大に向けた木材利用の意義等を国民に情報発信
花粉飛散量の予測・飛散防止	
予測 ・スギ雄花花芽調査の対象都道府県及び調査地点の拡大、花粉飛散予測の高度化に向けた航空レーザ計測・解析等の実用化やドローンの活用等による着花量調査手法の開発	飛散防止 ・飛散防止剤の早期実用化に向けた実証試験・環境影響調査

【お問い合わせ先】 林野庁計画課 (03-6744-2082)

本所

〒383-0061 中野市大字壁田938番地1
TEL 0269-38-0371(代)
FAX 0269-23-5350

利用事業室

〒389-2255 飯山市大字静間383番地14
TEL 0269-62-8111
FAX 0269-67-0120

編集後記

中野平中学校のSDGs活動支援では、タレント2名が生徒と一緒に伐り出しを行いました。紙面には画像等使用できませんが、組合事務所にはサインを飾っておりますので、来所された際には見てみてください。